

【新潟県新潟地域振興局長賞】

「税への興味」

新潟市立坂井輪中学校

三年 笹口 瑚々南

私のお母さんはパートで働いている。ある日、お母さんが「今年は物価高で、どんどんお金がなくなるよ…」となげいていたので、私は「シフト増やしてもらえば？」と言った。「そうしてほしいけど、働きすぎると、百三万円の壁を超えちゃうんだよね…」私はお母さんが言った「百三万円の壁」という言葉に興味を持ち、ネットで調べてみた。そこで分かったことは、年収が百三万円を超えると、所得税という税金がかかることだった。つまり年収百二万円の人と百三万円の人とでは、かかる税金が違うため、その分また多く働かなければいけないことになる。しかも年収が高ければ高いほど所得税が多くかかることも知った。私は、頑張って給料を増やそうとするほど税金が増える所得税がなぜあるんだろうと疑問に思った。でもこの疑問を納得に変えるようなくみを知った。それは、税の三原則にある「公平の原則」だった。高収入の人には多く税金を集め、低収入の人には税金を集めないという公平な考え方があることで、貧富の格差を少しでも軽くすることができる。これは、貧しい人にも税金を集めてしまう消費税とは違ったメリットだ。そうすると、貧しい人の大きな負担になりかねない消費税がなぜあるのかも気になった。調べてみると、所得税にはない三つのメリットを知った。一つ目は、年収が安定することだ。消費税は景気が

良くても悪くても買物などの経済活動によって徴収されているため、比較的安定して税を集めることができる。二つ目は、働く意欲を阻害しないことだ。さっき話にした通り、所得税は、頑張って働くほど、税金が増え、少し悲しい思いをする。消費税はそのようなことにはならない。三つ目は、今は仕事の収入が少ないものの貯金を持っていて高年齢者から税を集められることだ。少子高齢化によって現役で働く世代が少なくなっている今、この働いている世代の負担を少しでも減らせることは大きなメリットとなっている。このように所得税と消費税が組み合わさることで、うまく税を集められるのだと分かった。そんな税のいろんな仕組みをもっと知り、これからも納税していきたいなと思った。